

陶芸工房を開設
した宅間さん
＝大野町5丁目

「雰囲気が入った」



大野町5丁目で長年、醤油工場や蔵として使用されていた建物が陶芸工房に生まれ変わった。能美市を拠点に活動していた宅間祐子さん(40)が、「醤油の町」の歴史を伝える味わい深い建物や町並みに引かれ、工房を開いた。宅間さんは「新たな作風を生み出したい」と意気込んでいる。

醤油工場に陶芸工房

大野で宅間さん 能美から移る

建物は木造平屋建て、建築面積約150平方メートルで、昭和初期に建てられたとみられる。数年前まで、三津守醤油醸造所の工場や蔵として使われていたものの、店主が亡くなって醸造所が廃業して以降は使用されていなかった。

宅間さんは数年前に大野町を訪れたことがあり、「大野のゆったり、のんびりした雰囲気が印象的だった」と町内で工房の物件を探していた。まちづくりグループ「大野こまちなみ研究所」の仲介で、旧三津守醤油醸造所を紹介されると、外観や雰囲気が気に入り、工房「たくまポタリー」を開いた。

宅間さんは2月から、大野町の工房で器の制作を始めた。仕事と並行し、照明の整備なども進めており、4月中には大野周辺に住居も移すことになっている。宅間さんは新工房について「重厚な雰囲気があり、作品の幅も広げられそうだ」と話した。